

## 第29回 話すのなんか、下手でいい

## 今回のゲスト

0

「声」をお仕事にされている渡辺克己さんの仕事の楽しさは？

サラリーマンをしなから芝居の世界へ

「感情のデータベースに見合った声」とは？

技術より、「見る」と「聞く」が大事

### 自分の演奏の仕方を決めるのは、自分。

今回のゲストは、声を聞けば思わず「聞いたことある！」と言ってしまふ、渡辺克己さんです。意外にも、学生時代は自分の声が大嫌いで、人にほめられてもピンとこなかったという渡辺さん。その渡辺さんが「芝居」の世界に足を踏み入れ、声を通して活躍されるまでの物語を、語っていただきました。「話す」ということが求められるすべての人にとって、ためになるお話しです。

普通のサラリーマンだった渡辺さんは、学生時代に少し興味を持っていた芝居を、趣味でやってみようと思つたそうです。有給を使いまくって芝居を続けていたという渡辺さんですが、あるときキャストイングの方に会う機会を得ました。「いい声だね」とその人に言われたことがきっかけで、会社をやめることを決意。「後先考えずにやめました」。

NEWS ZERO や東京ガスのCM「東京ガスストーリー」をはじめ、有名企業のテレビCMなどのナレーションを多くされている渡辺さん。「何かやってください」という悪ふざけにも照れながら応じてくださいました。「声だけで表現する上で必要なことは？」と質問したところ、「しゃべるのなんか、下手でいいんですよ」と渡辺さん。ご自身も赤面症で吃音もあったという経験から「自分は楽器だと思っています。どう演奏するかは自分で決める。どう話すかの前に、どう生きてきたかということがとても影響を与えます」と。どんなことを感じて生きてきたかが、台詞を言うときに反映される。そのことを渡辺さんは「感情のデータベースに見合った声が出る」と説明します。

「オーケストラと同じで、いろんな音色があるからこそ世界が豊かになる」。自分の声で伝えられるものを一生懸命伝えれば、必ず伝わる。「伝わる声の出し方を教えてもらえないまま、社会人になってプレゼンをしろというのは酷ですよ」。渡辺さんは言います。「けれど一番大事なのは、「見る」「聞く」。伝えたい人が目の前にいるんだからよく観察することです」。とっても楽しい収録、ありがとうございました。

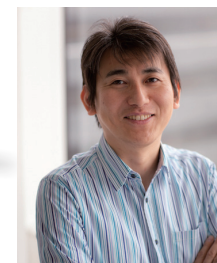


### 渡辺克己(わたなべ・かつみ)さん

1965年生まれ。サラリーマンを経て、現在は、ナレーター・MC・ラジオパーソナリティ・役者幅広く活躍されています。NEWS ZERO やCM、プラネタリウム、映画館などでそのお声を耳にした人も多いのでは？ 話すことが苦手だったというご自身の経験を踏まえ、「いきいきとした話しことばを取り戻すことで、いきいきとした人生を生きる」をテーマに、企業や団体、学校で講演、ワークショップもされています。

活動情報は、<http://www.katsumiwatanabe.com/> をご覧ください。

ホントいい声でしたよね。テクニックも大事だけど、その前に自分の中でその台詞が腑に落ちているかどうかが重要というお話しは、なるほどと思いました。

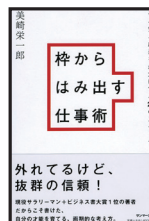


## リスナーへお知らせ！

リスナー交流の場、Facebook ページを作りました。

「いいね！」をお願いします。

→ <https://www.facebook.com/misaki.podcast>



美崎ファン必読！

この番組成立のきっかけになった1冊です。

『**枡からはみ出す仕事術**』発売中

こちらをクリック！→ <http://amzn.to/dShb3I>

この番組へのご感想や、こんなゲストを呼んでほしい！  
などのご要望を随時募集しています。こちらにご連絡ください。  
a16.misaki@gmail.com

今回のゲストは・・・  
「仕事が面白くなる働き方」を提案する  
プラマンテ代表の  
田島弓子さんです。